

13-15日 授産ボイコット 17日 ストライキで 佐ト訪米阻止に決起せよ!!

戦後日本の階級争争の頂点として、欺瞞的であるからには、70年代を帝制主義の買収と体制的合理化貫徹による全面収奪、我々の権力を統制員して強圧し、めあつた権力を統制員して強圧し、十七日佐トは訪米を行なわんとしている。我々にとつてこの佐ト訪米はどのさうは意味を持つのだろうか。ヤトナは一種の批判的政治攻撃の真先に、安楽体制の一新の支柱である大学の帝制主義的再編と全面的に對策し、反帝・反安保勢力の中核として、八月に大学立法70年記念大会を成立させ、狂気の癡狂を行なつてゐる。我々はこの弾圧体制を突破し、訪米阻止に佐ト帝制主義の閣下ト政府危機に政府危機、社会定規を定望した「実力阻止」の強固な思想性をもつてこの夕夕日訪米阻止斗争を叫び抜き、11日訪米、12日国会解散、総選挙のそくろ力を徹底的に粉碎せねばならぬ。全国の反戦米抑圧者の和共政治ストに燃え、ストライキ、戦時的デモンストレーションでもって斗敗退後、自らアジア反革命の盟主を貫つて出る日本帝国主義にとつて死産の向題としてあるのだ。そして、70年代安保争争の真実は、即時無条件全面復帰をスローガンに掲げ、戦時的にシウ沖繩の本土の抑圧者、人民の斗争をナシヨナリナムで自閉し、極東戦時最大の核基地である沖繩を日米を共同管理し、「沖繩の本土を返還せよ」というマターの下に「本土の沖繩化」に全土核基地化をたくも佐ト内閣の野望をいかにして粉砕するかにある。佐トは米として我々の手に動かされ、ニクソンに押運返還をかけた行くのは否か。彼は、まさしく、日本帝国主義の「アジヤ」の代弁者として自らのへげモノでも、こゝを渡すのだ。佐ト訪米が阻止されなければならぬのは、その「返還を本土に返還」が

スケジュール

12日 12:30	佐ト訪米阻止全学総決起集会
6:00	扇町一中前(全大反安保)
13日 3:00	学内集会
6:00	扇町
15日 6:00	八幡通ストライキ
	(大寺前一中前)
16日 11:00	扇町一中前(府民共闘)
17日	統一

佐ト訪米阻止ノ
沖繩斗争勝利ノ
70年代安保粉砕ノ
団交貫徹ノ
渡瀬体制打倒ノ
米大斗争勝利ノ

11/12 商学部ストライキ実行委員会準備会

欺瞞的であるからには、70年代を帝制主義の買収と体制的合理化貫徹による全面収奪、我々の権力を統制員して強圧し、めあつた権力を統制員して強圧し、十七日佐トは訪米を行なわんとしている。我々にとつてこの佐ト訪米はどのさうは意味を持つのだろうか。ヤトナは一種の批判的政治攻撃の真先に、安楽体制の一新の支柱である大学の帝制主義的再編と全面的に對策し、反帝・反安保勢力の中核として、八月に大学立法70年記念大会を成立させ、狂気の癡狂を行なつてゐる。我々はこの弾圧体制を突破し、訪米阻止に佐ト帝制主義の閣下ト政府危機に政府危機、社会定規を定望した「実力阻止」の強固な思想性をもつてこの夕夕日訪米阻止斗争を叫び抜き、11日訪米、12日国会解散、総選挙のそくろ力を徹底的に粉碎せねばならぬ。全国の反戦米抑圧者の和共政治ストに燃え、ストライキ、戦時的デモンストレーションでもって斗敗退後、自らアジア反革命の盟主を貫つて出る日本帝国主義にとつて死産の向題としてあるのだ。そして、70年代安保争争の真実は、即時無条件全面復帰をスローガンに掲げ、戦時的にシウ沖繩の本土の抑圧者、人民の斗争をナシヨナリナムで自閉し、極東戦時最大の核基地である沖繩を日米を共同管理し、「沖繩の本土を返還せよ」というマターの下に「本土の沖繩化」に全土核基地化をたくも佐ト内閣の野望をいかにして粉砕するかにある。佐トは米として我々の手に動かされ、ニクソンに押運返還をかけた行くのは否か。彼は、まさしく、日本帝国主義の「アジヤ」の代弁者として自らのへげモノでも、こゝを渡すのだ。佐ト訪米が阻止されなければならぬのは、その「返還を本土に返還」が